

教科 科目 単位数	公民 政治・経済 2	受信校	北海道常呂高等学校	学科 学年(年次) 履修・実施	普通科 第3学年 必修・一斉
教科書 副教材	「高等学校 政治・経済」(第一学習社) 「政治・経済ノート」(第一学習社)				

1 目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2)国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
- (3)よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

(高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)より)

2 学習のポイント

- (1)オリエンテーション時に示す「授業のルール」を守り、積極的に授業中の活動に取り組んでください。
- (2)授業で利用するペーパー類は、Web上での配布となります。紙媒体として持っておきたいときには、所属校の担当の先生に相談してください。
- (3)適宜、ペアワークやグループワークを行います。相手の意見や主張を尊重しつつ、自らの意見や主張を積極的に発信していきましょう。
- (4)授業中、主に教科書・タブレットを使用して授業を行います。説明の内容や疑問に思ったことはノートを準備しメモ取るなどの工夫をしてください。
- (5)普段から、「なぜ」「どうして」という姿勢で授業に能動的に参加しましょう。

3 学習の評価

(1)評価の観点とその趣旨

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
政治、経済、社会、国際、など現代的諸事象を項目別に理解し、関連する課題の要因などを理論的に理解すること。また、既存のデジタル技術の活用ができ、効果的な思考・判断・表現のツールとして理解できること。	現代的諸事象の意味や意義、特色・相互関連を、地域・国家・個人などに着目して、得た知識や技能を活用して多面的・多角的に考察できること。および、考察したことを効果的に説明し、議論できること。	政治経済分野に限り20%ルールを適用し、探究的な学びを自主的に展開できること。現代的考察で得た知識を地域・国家・地球規模の課題に結びつけられること。これらを持続可能性という観点から探究課題を自ら設定し、他者への発信を行うことができること。

(2)評価方法と観点との関連(◎=特に関連の深いもの)

	評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア	学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組
イ	各自のノート	◎	◎	○	ノートの効果的な書き方やその取組
ウ	言語表現活動	○	◎	◎	探究学習の文書化・発表
エ	テスト	◎	○	○	定期考査や小テスト
総括時の比率		1	1	1	

4 その他

<遠隔授業について>

(1)授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出て構いません。

(2)授業者が現地にいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。

(3)その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。

(4)授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、クラスルームなどを利用してもらっても構いません。

(5)授業では常に持ち込み端末を利用します。各自で Google の学校（公式）アカウントの設定や充電を忘れないようにお願いします。

5 年間授業計画（計 60 時間）

月	○題材 ●主な教材	配当	【学習領域】 ・主な学習内容 □対面授業 ◇テスト等	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4 / 5 / 6	授業について	1	遠隔授業の学習について	アンケートへの回答などからの生徒理解	③オリエンテーションでの積極的参加姿勢
	○日本国憲法と現代政治のあり方 ●第1編 第1章 第1節	4 6 2	・法の支配と立憲主義 ・基本的人権の保障と日本国憲法 □対面授業 ・議会制民主主義と世界の政治体制	・法に関する基本的な見方や考え方を把握しながら、法の意義について理解し、基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、人権保障の広がりについて考察する。 ・日本国憲法の成立過程を把握しながら、日本国憲法の三大原理について理解し、個人の尊厳、自由、平等などの社会的価値について把握しながら、権利相互の関係や人権をめぐる諸課題について理解する。 ・民主主義の発展について理解するとともに、各国の政治体制について諸資料を利用して比較し、類似点や相違点を理解する。	①法の支配や立憲主義の意味と意義について、理解している。基本的人権が確立した背景や経緯について、理解している。新しい人権が主張されるようになった背景や、新しい人権の具体的内容について、理解している。人類は人権保障に向けてどのように努力してきたか、理解している。民主政治の考え方と、議院内閣制や大統領制の特徴について、理解している。 ②国家の統治原理として、法の支配や立憲主義を確立することの大切さについて、多面的・多角的に考察し、表現している。個人の尊重や憲法によって保障されている自由や平等について、多面的・多角的に考察し、表現している。権利と義務との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。よりよい民主政治のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③日本国憲法と現代政治のあり方について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
		2 2 3 3	・国会の組織と立法 ・内閣の機構と行政 ・裁判所の機能と司法制度	・国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれながら、それぞれの役割について理解する。 ・日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について、問題点も含め、幅広い視点から考察する。 ・裁判員制度について理解し、報道資料などから国民の司法参加の意義を考察するとともに、刑罰の意義や犯罪被害者の救済、犯罪者の更生のあり方について考察する。	①国会の地位と構成について、理解している。法律はどのようにして成立するのか、理解している。日本の内閣と国会の関係について、理解している。内閣総理大臣と内閣の権限について、理解している。司法権の独立と日本の裁判制度について、理解している。 ②国会の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。今後の行政の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。国民の司法参加のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解

				決しようとしている。	
7 / 8 / 9	○市場経済の機能と限界第●3節	5 2 2 2 2	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と市場 ・経済主体と経済循環 ・国民経済の大きさと経済成長 ・物価と景気変動 ◇前期実力考査 ・市場の失敗と公害 	<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済の特徴や現代経済の特質について理解する。 ・市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解する。 ・家計・企業・政府が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのか理解する。 ・株式会社とはどのようなものか、所有と経営の両面から理解するとともに、企業の社会的責任について考察する。 ・国民所得の構成や景気変動、経済成長について、諸資料を利用して、日本と諸外国の現状を比較する。 ・物価の変動要因を理解するとともに、物価の変動が国民経済に及ぼす影響について考察する。 ・独占、寡占状態の市場での消費者に対する影響と、その弊害を排除するための措置について理解する。 ・市場の失敗に関連して、公害や消費者問題などの社会問題への対策のあり方について考察する。 	<p>①経済の役割と、市場経済における人々の選択について、理解している。資本主義経済の特質とその変容について、理解している。三つの経済主体の活動と、経済循環における役割について、理解している。株式会社のしくみと株主との関係について、理解している。ストックとフローの概念や、GDPなどの指標について、理解している。経済成長率における名目と実質の違いや、経済成長の要因について、理解している。インフレとデフレの原因と影響、景気変動のしくみについて、理解している。物価や景気の変動に対する政府の施策について、理解している。さまざまな市場の失敗の事例と、その弊害について、理解している。公害と消費者問題に対する施策について、理解している。</p> <p>②価格はどのようにして決まるのか、具体的な市場を取り上げて多面的・多角的に考察し、表現している。企業の社会的責任のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。自立した消費者としてどのような行動をとるべきか、多面的・多角的に考察し、表現している。市場の機能と限界や解決のあり方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>③市場経済の機能と限界について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
10 / 11 / 12 / 1	○持続可能な財政および租税のあり方●第4節 ○金融を通じた経済活動の活性化●第5節	10	<ul style="list-style-type: none"> ・財政のしくみと租税の意義 □対面授業 ・金融のしくみとはたらき 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政の基本的なしくみや役割、租税の意義やその用途について理解する。 ・日本の財政の現状について、公債残高が膨張していることを理解するとともに、将来に及ぼす影響を考察する。 ・金融のしくみや役割、日本銀行の金融政策、金融の自由化などの金融に関する環境の変化を理解する。 	<p>①財政の機能としくみについて、理解している。租税の種類やその特徴について、理解している。</p> <p>②財政における国と地方の役割分担について、多面的・多角的に考察し、表現している。持続可能な財政のあり方を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>③「持続可能な財政および租税のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p> <p>①金融のはたらきと金融機関の役割について、理解している。日本銀行の金融政策とその影響について、理解している。</p> <p>②現在の金融をめぐる動向とその課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。金融を通じた経済活動の活性化のしくみやあり方を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>③金融を通じた経済活動の活性化について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>

<p>○国際法の果たす役割 ●第2編 第1章 第1節</p>	<p>1 1 2 1</p>	<p>・国際社会の変遷 ・国際法の意義 ・国際機構の役割 ・国際紛争と軍縮への取り組み</p>	<p>・国際社会の成立過程を把握しながら、実際には国家間でさまざまな格差があることを理解する。 ・国際政治と国内政治の違いや、国際法や国際裁判の意義を理解する。 ・国際連盟と国際連合の違いを把握しながら、国際連合の役割、国際連合が抱えている課題について理解する。 ・民族紛争を例に、複雑な国際関係を幅広い視点から考察するとともに、国際社会における文化や宗教の多様性について理解する。 ・軍縮や国際平和に関する問題について、メディアを利用して調べ、その課題について考察する。</p>	<p>①国際法と国内法の違いや、国際法の種類や特徴について、理解している。さまざまな国際裁判とそのしくみについて、理解している。勢力均衡と集団安全保障の違いについて、理解している。国際連合の機能と主要機関の役割について、理解している。国際紛争はどのような原因で起きるのか、理解している。 ②国際法の果たす役割について、国際社会の特質や国際紛争の諸要因と関連付けて、将来、国際社会においてどのような制度やしくみを作っていくことが必要か、多面的・多角的に考察し、表現している。領土問題などの国際紛争の解決のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。今日の国際情勢の変化を受けて、国際連合はどのような役割を強化すべきか、多面的・多角的に考察し、表現している。核兵器廃絶のために、どのような努力がなされてきたのか、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③国際法の果たす役割について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>○相互依存関係が深まる国際経済の特質 ●第3節</p>	<p>2 2 2</p>	<p>・貿易の現状と意義 ・国民経済と国際収支 ・為替相場の変動 ◇後期実力考査</p>	<p>・グローバル化にともなうヒト、モノ、カネの国際的な移動が、国際経済に与える影響について、考察する。 ・国際収支の基本的な構成を把握しながら、経済摩擦の要因である不均衡が生じる原因について理解する。 ・為替相場のメカニズムについて把握しながら、円高・円安が国内の産業にどのように影響するか理解する。</p>	<p>①比較優位の考え方や国際分業の利点について、理解している。国際収支統計の基本的な構成について、理解している。変動相場制における為替相場の決定のしくみについて、理解している。 ②現在の世界と日本の貿易の現状と動向について、考察し、表現している。国際収支の動向をもとに、日本の対外経済取引の現状について、考察し、表現している。 ③相互依存関係が深まる国際経済の特質について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>
<p>○現代日本の諸課題の探究 ●第1編 第2章</p>	<p>3</p>	<p>[選択] 1 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 2 地域社会の自立と政府 3 多様な働き方・生き方を可能にする社会 4 産業構造の変化と起業 5 歳入・歳出両面での財政健全化 6 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現 7 防災と安全・安心な社会の実現</p>	<p>・現代日本の諸課題について、政治と経済との関連に留意しながら、さまざまな角度(視点)から考え、客観的な立場に立って望ましい解決のあり方を構想する。 ・第1編第1章の学習の成果の上に立って、現代日本の諸課題について探究し、さまざまなメディアや聞き取りなどによって調査する。 ・調査結果をもとに、話しあい・発表・レポート・小論文などの言語活動によって自分の意見を表現する。</p>	<p>①諸課題の探究にあたって、日本社会の動向に着目したり、国内の諸地域や諸外国における取り組みなどを参考にしたりしている。 ②社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会のあり方についての自分の考えを説明、論述している。 ③取り上げた課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画に向かおうとしている。</p>